

「忘れない！濁流の子 プロジェクト(仮称)」の立ち上げについて（原案）

（プロジェクトの趣旨）

人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト選定委員会では、「濁流の子～伊那谷災害の記録～（出版物）」を災害教訓伝承活動のシンボリックな存在として、平成24年度に「人と暮らしの伊那谷遺産」に選定し、併せて災害を伝える書籍や写真などを収集・整理するための活動を推進することとしたところです。

「濁流の子」は、1961（昭和36）年に伊那谷を襲った三六災害（土砂災害と大規模な河川氾濫）に被災した小中学生の当時の思いを綴った作文集で、伊那谷地域での災害教訓伝承活動を代表する象徴的な取り組みであると考えられます。

三六災害から52年が経ち、災害経験者の高齢化等にともない、災害に備えるための知恵や教訓が後世に語り継がれず、散逸や風化の恐れがあるなか、地域全体として災害教訓伝承に対する取り組みを推進し、地域防災力の向上を図るためには、「いますぐ行動！」する必要があります。

選定委員会では、このような問題認識から、「忘れない！濁流の子 プロジェクト(仮称)」を立ち上げ、適切に役割分担や連携を行いながら、伊那谷地域全体として災害教訓伝承に対する取り組みを推進し、地域の自助・共助を後押ししつつ、地域防災力の向上を図るために行動することとしました。

（プロジェクトの骨子）

- ①平成23年度に実施した「三六災害50年実行委員会」による広報活動などの取り組みにより収集した資料や、今後のキャンペーン展開により新たに発掘する資料を整理し、オリジナル資料又は複製を収蔵すると共に、併せてデジタルアーカイブス化し公開します。
- ②活動の拠点を「天竜川総合学習館かわらんべ」として、資料の収集・整理やオリジナル資料等の収蔵を担当し、整理した資料のデジタルアーカイブス化を天竜川上流河川事務所が担当します。また、信州大学附属図書館がデジタルアーカイブスの保存及び公開について検討中です。
- ③平成26年度～30年度の5ヶ年計画とします。（5ヶ年間の行動計画は、次回選定委員会の決議を経て、公表します。）

伊那谷地域全体

忘れない！濁流の子
～災害教訓伝承活動の促進を目指して～

他の地域へ情報発信

天竜川総合学習館かわらんべ

～忘れない！濁流の子 文庫（仮称）～

（役割分担）

- ・資料の収集整理、オリジナル資料等の収蔵

信州大学附属図書館

～忘れない！濁流の子 リポジトリ（仮称）～

（役割分担）

- ・デジタルアーカイブスの保存及び公開

天竜川上流河川事務所

（役割分担）

- ・収集整理した資料のデジタルアーカイブス化

「忘れない！濁流の子 プロジェクト（仮称）」のイメージ

プロジェクトのネーミングについて

(ネーミングの考え方)

- ①人と暮らしの伊那谷遺産に選定した出版物「濁流の子」を活用する取り組みとして、選定委員会がプロデュースするものであることから、「濁流の子」(「災害教訓」の比喩的表現と認識)をネーミングの素材として使いたい。
- ②災害教訓(≡「濁流の子」)を後世に引き継ぐ取り組みであることをアピールしたい。

(ネーミングの例)

- 例 1 忘れない!濁流の子プロジェクト
- 例 2 語り継ぐ“濁流の子”プロジェクト
- 例 3 “濁流の子”伝承プロジェクト
- 例 4 濁流の子を言い伝えるプロジェクト